

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数1,154件(前月比 0.2、前年比 0.7)と3月の5,246件から激減しています。一昨年のシーズンに似た推移です。山鹿(定点あたり45.3、報告136件)、菊池(定点あたり25.6、報告205件)が多いようですが、県下全ての地区より二桁の報告があります。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告総数5,223件(前月比 0.6、前年比 0.7)でした。減少の主な理由は、インフルエンザの減少です。疾患別では、ヘルパンギーナが40件から125件(前月比 3.1)と増加、RSウイルス感染症が62件から14件(前月比 0.2)と減少しています。水痘は昨年から三桁の報告が続いています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告は14件で、12月をピークとして例年同様に次第に減少しています。0歳児を中心として2歳以下の報告です。熊本(6件)・宇城(4件)・人吉(3件)・菊池(1件)からの報告です
2. 咽頭結膜熱: 報告数65件(前月比 0.7、前年比 1.0)と、昨年並みの動きで次第に減少しています。今後は、夏に向け増加して行くものと思われます。1歳、次に2歳が多いのですが、幅広く分布しています。菊池の定点あたりの報告数4.0が目立ちますが、ほぼ県下から報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数403件(前月比 1.1、前年比 1.2)です。昨年は5月にもピークがありましたが、夏に向け減少して行くものと思われます。年齢層別の報告数も変わりありません。菊池(定点あたり26.6、133件)、宇城(定点あたり13.5、54件)で定点あたりの報告が二桁となっています。
4. 感染性胃腸炎: 報告数2,434件(前月比 0.9、前年比 1.4)と報告数・推移も例年と同様でした。年齢では1歳にピークがありますが、0歳から6歳まで三桁の報告数です。ほぼ全県下から三桁の報告があります。定点あたりで報告が多いのは、菊池(定点あたり 93.2、466件)を筆頭に宇城(定点あたり 88.3)、有明(定点あたり 77.2)です。
5. 水痘: 報告数232件(前月比 1.3、前年比 0.6)と、前月からは増加しましたが、全体としては今後、減少に転じると考えます。人吉(定点あたり10.3、31件)が目立ちますが、阿蘇0件、御船・水俣が各々1件、八代8件以外の地区より二桁の報告があります。1~4歳を中心とした流行で、予防可能な疾患(VPD)ですので周知が必要かと考えます。
6. 手足口病: 報告数393件(前月比 2.0、前年比 3.4)と、2月以降増加しています。昨年は夏に向け流行がありました、今後の推移に注意が必要と考えます。水俣(定点あたり37.5、75件)、八代(定点あたり25.5、102件)、宇城(定点あたり14.0、56件)に多く見られますが、阿蘇以外の地区からは報告があります。
7. 伝染性紅斑: 報告数10件(前月比 1.1、前年比 1.1)と、ここ数年の20以下の報告数で推移しています。0~6歳に各々数例の報告です。

8. 突発性発疹症： 報告数164件(前月比 1. 3、前年比 0. 9)と、報告数・推移とも例年並みの動きです。阿蘇・御船の二地区を除き県下から報告があります。3歳2例、5歳1例の報告が年齢的に目立ちます。年齢が上昇しているのではという報告もあり今後の推移を見守る必要があります。
9. 百日咳： 3件の報告です(前月比 1. 5、前年比 3. 0)。1歳1件と10～14歳の2件で0歳児からの報告はありません。菊池2件、八代1件でした。昨年の報告数は、あったとしても月に1件程度の報告でしたが、今年に入り2名以上の報告数が続いています。VPD ですので、予防接種の再周知が必要です。
10. ヘルパンギーナ： 報告数125件(前月比 3. 1、前年比 3. 8)と例年より早めの増加で推移しています。天草(定点あたり8. 5、34件)、菊池(定点あたり7. 6、38件)が多いようです。1歳を中心とし4歳以下からの報告です。
11. 流行性耳下腺炎： 報告数11件(前月比 0. 4、前年比 0. 6)と昨年来の低水準が続いています。熊本で7件(定点あたり 0. 4)、菊池・御船・有明・宇城から1件ずつの報告です。3～7歳に多く見られます。VPD疾患ですので周知が必要です

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数60件(前月比 0. 8、前年同月 1. 3)と1月から少しずつ減少してきていますが、前年同期よりも多発しています。地域別では熊本52件、菊池1件、有明1件、天草6件の報告です。相変わらず20～40歳代にピークがあります。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：報告数 41件(前月比 1. 0、前年同月比 0. 6)で、前月比とは同数、前年同月比では減少しています。男女別は、女性が24件と多く見られています。年齢別は、女性は20～24歳に12件と多く、男性では15～59歳と幅広く見られています。地区別は、熊本27件と圧倒的に多く、次いで八代6件、有明4件、御船2件、人吉、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 23件(前月比 1. 5、前年同月比 1. 4)で、前月比は増加、前年同月比も増加しています。男女別は、女性が15件と多く見られています。年齢別は、女性は20～70歳以上と幅広く、男性も30～64歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が15件と圧倒的に多く、次いで菊池5件、八代、有明、宇城に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は6件(前月比 1. 5、前年同月比 1. 5)で、前月比、前年同月比ともに増加しています。男女別は、男女同数でした。年齢別は、男性は30～39歳に、女性は15～24歳に見られています。地区別は、熊本2件、菊池、御船、八代、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は13件(前月比 0. 6、前年同月比 0. 7)で前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、すべて男性でした。年齢別は、男性は25～29歳に5件見られています。地区別は、熊本11件、八代、有明に各1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数1件(前月より +1、前年同月比 0.5)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比 0.3、前年同月比 0.5)でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数4件(前月比 1.3、前年同月比 0.3)でした。
減少傾向で続いています。
4. クラミジア肺炎: 報告数0件(前月より変わらず、前年同月より-1)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数30件(前月比 1.2、前年同月比 -)でした。
(ロタウイルス)

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数29件(前月比 1.5、前年同月比 1.1)でした。
過去1年20-30/月で推移し、減少は頭打ちです。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数7件(前月比 0.9、前年同月比 1.0)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月より変わらず、前年同月より変わらず)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月より変わらず、前年同月より変わらず)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核: 43件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症: 2件
- 4類感染症: デング熱: 2件
- 5類感染症: クロイツフェルト・ヤコブ病: 1件